

## 三島支部より

### 楽しかった卓球大会

去る11月13日(木)、三島地区小・中・養護学校養護教育研究会(大阪府養護教育研究会三島支部)主催の中学校卓球大会が茨木市民体育館で開かれました。

この卓球大会は、本研究会の年間行事の中でも最大のものであり、高等部3年の生徒が生まれる前から毎年催されている歴史ある行事で今年も養護学校3校、中学校19校から計103名の生徒が参加してくれました。



また、この大会は平素、三島地区各市町の養護学校、養護学級で頑張っている障害のある生徒たちが年に一度一同に会して卓球を通じて交流をするとても意義深いものです。

この大会の趣旨をさらに広めるため、昨年度からは高等部と中学校を分けることによって、中学生が賞状を取りやすくするなど、改善も重ねてきました。

開会式では、会長から日頃から養護学級や体育の時間、あるいはクラブで磨いている卓球の腕前を遺憾なく発揮して欲しい、試合の合間には他校の生徒とも話をし、友達になって欲しい、などの挨拶がありました。その後、試合に入りましたが、各台とも熱戦が繰り広げられました。参加者の中には、卓球のルールが十分に理解できていない生徒から、ラリーはもちろん、するどいスマッシュを打つ生徒までいて技量は多彩でしたが、いずれも和気あいの雰囲気で行われました。

試合中は同じ学校の友だち、保護者の方々、引率の先生や中には校長先生、教頭先生などのギャラリーが熱心に応援をし、一球一打に歓声があがり、とても盛り上がりました。試合が終わって生徒同士が握手したり話し合ったりする場面、また、養護学校高等部に行っている生徒が、久しぶりに中学校の先生と再会し、感激している場面、我が子の勝利に飛び上がって喜ぶ保護者の姿もありました。

負けて悔し泣きをする生徒もいましたが、勝負ですから必ず勝者と敗者に別れます。勝つ喜びを味わうことも、負ける悔しさを味わうことも、生徒たちにとってはとても貴重な体験でした。

終盤の決勝戦あたりになると、さすがにレベルの高い試合の連続で、1時半に開始された大会はあっという間に3時間が過ぎ、閉会式の時刻になってしまいました。3位までに入って表彰された生徒たちは現地での表彰とは別に、各



学校に帰って自分の学校の校長先生から、全校生徒の前で改めて表彰状とメダルを受けるのを楽しみにしていました。主催者としては、この表彰状が今後の人生を生きていく上で大きな自信につながってくれたらと願っています。

このように、今年の大会も所期の目的を十分に果たすことが出来、参加者一同、入賞した人はもちろん1回戦で敗退した人も、さわやかな顔つきで帰路につきました。

(文責 大阪府養護教育研究会三島支部長 村井俊二)